春日井市図書館　**図書館だより**　2021 年秋号

蔵書点検のため全館・全室で休館します

令和３年 10 月 12 日（火）～10 月 21 日（木）

※ 10 月 11 日（月）は、通常の休館日です。

また、9 月 22 日（水）～10 月 21 日（木）は閉架書庫資料の閲覧・貸出を停止します。

蔵書点検は、図書館に所蔵している本が決められた場所にあるか、行方不明になっている本がないか、点検する作業です。機械を使って本のバーコードを一冊ずつ読み取って本があること確認し、もし行方不明の本があれば館内を探します。ご迷惑をおかけしますが、ご理解・ご協力をお願いいたします。

読書の秋。安心して図書館の本を楽しむためにもう一度！

☑ 読書中の感染症対策チェックリスト

- □ 読書の前後には手を洗う。
  図書館の出入口に設置の手指消毒用アルコールもご利用ください。
- □ 本を読みながら飲食したり、顔を触ったりしない。
- □ 指を舐めてページをめくらない。
- □ 本を開いたまま咳やくしゃみをしない。
- □ 図書館に来るときはマスクを着用し、短時間で利用する。
  インターネット検索で事前に本のタイトルや貸出状況を調べ予約することができます。
  電話でも調べ物や予約を受付しています。

感染症対策に ご理解、ご協力をお願いします

今後の新型コロナウイルスの感染拡大の状況により、図書館・図書室のサービスの内容が変更になる場合があります。最新の情報はホームページ等をご覧いただくか、図書館までお問い合わせください。ご迷惑をおかけしますが、ご理解、ご協力くださいますよう、お願いいたします。

春日井市図書館　電話：(0568)85-6800
〒486-0844　愛知県春日井市鳥居松町 5 丁目 44 番地　文化フォーラム春日井　3・4 階
開館時間：午前 9 時～午後 8 時　休館日：月曜日（休日の場合はその直後の休日でない日）

おすすめ本紹介

オーケストラを読む ♬♪

「音楽は聴くもの」と思うところですが、図書館には音楽に関する本もたくさん所蔵しています。演奏を文字や文章で表現した小説や、大作曲家の伝記、曲の解説や作られた背景など、様々な種類を読むことが出来ます。そんな音楽の中でもオーケストラに関する楽しい本を紹介しましょう。

『楽しいオーケストラ図鑑』

東京フィルハーモニー交響楽団/監修　小学館

76/タ/18（図書館３階児童/ふじとう/高蔵寺）

東京フィルハーモニー交響楽団監修のもとに書かれたオーケストラの入門書です。演奏者と楽器の解説、演奏会までの流れや、様々なスタッフの仕事などが写真とともにわかりやすく書かれています。演奏会でのマナーや服装なども知ることができます。

ところでオーケストラの一番真ん中にいる指揮者って何をしてるの？と思っている人には次の本もおすすめです。

『マエストロ、それはムリですよ…　飯森範親と山形交響楽団の挑戦』

飯森　範親/監修　松井　信幸/取材・構成　ヤマハミュージックメディア

764.3/マ/09（図書館４階一般/ふじとう）

この本には指揮者の仕事の大変さがよく描かれています。演奏者をまとめるだけでなく、どうすればもっとお客さんに聴いてもらえるかを考えるのも指揮者の仕事です。音も気持ちもどんどん変わってゆく山響（山形交響楽団）がすばらしく、ぜひ本物の演奏を聴いてみたくなります。

ところで飯森範親さんは２０２０年から小牧市の中部フィルハーモニー交響楽団の首席客演指揮者を務めています。この本を読んでファンになった方はぜひ生の演奏会に行ってみてはいかがでしょうか。

『マエストロ、時間です　サントリーホールステージマネージャー物語』

宮崎　隆男/著　ヤマハミュージックメディア　760.6/マ/01（図書館閉架一般）

※所蔵本は 2001 年刊。加筆、再編集した 2017 年刊の改定新版が発売中（当館未所蔵）。

指揮者が一番信頼する魅力的な仕事をするのが“ステージマネージャー”です。演奏会の会場や指揮者の手配、楽器の搬入から配置にいたるまでスムーズな進行を行う責任者です。緊張の極限にいる指揮者の背中をそっと押してこのタイトルの言葉を伝えます。普段知ることのない裏話満載の楽しい本です。

『日本のプロフェッショナル・オーケストラ年鑑　２０２０』

日本オーケストラ連盟/制作　764.3/ニ/21（図書館４階一般）

国内のオーケストラが前年度どんな演奏会や活動をしたかをまとめた年鑑です。

山響はもちろん、中部フィルハーモニー交響楽団・名古屋フィルハーモニー交響楽団・セントラル愛知交響楽団など、地元のオーケストラも掲載されています。

まだまだ興味の尽きない音楽の世界。ぜひ読んでみませんか？

おすすめ本紹介

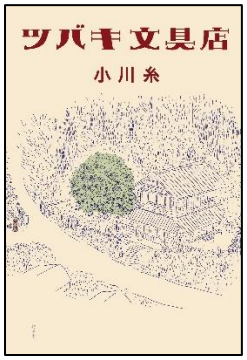
読書で癒される

いつもの秋なら旅行に出かけたり美味しいものを食べたりスポーツをしたり、楽しむ事の多い季節ですが、「新型コロナ」で何か気分が晴れない毎日が続きます。アフターコロナに思いを馳せて、秋の夜長、読書で癒されてみませんか。３冊のおすすめ本を選んでみました。

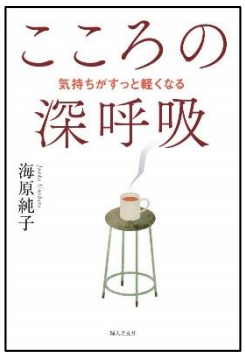
『ツバキ文具店』

小川　糸/著　幻冬舎

Ｆ/オカ/16（図書館４階一般/ふじとう/中央）



古都鎌倉ツバキ文具店が舞台。主人公のポッポちゃんとご近所の人たちとの心置きなく人情味あふれるやり取りに、何かあたたかいものを感じます。文書屋も営んでおり、絶縁状、置手紙などの依頼が舞い込みます。依頼人の気持ちをくんでの出来上がりに共感できるものがあります。今はメールやラインで済ませがちですが、時にはこんな文書屋に依頼してみてはいかがでしょうか？この本は疲れた時に読んでみたい一冊です。



『こころの深呼吸』

海原　純子/著　婦人之友社　914.6/ウミ/19（鷹来）

「鼻呼吸倍呼吸法」でのリラックスや、「９０秒システム」で気分をリセットすることを心療内科医の立場からすすめています。他にも章ごとにリラックスのヒントが述べられ、体がゆるむと心もゆるんで気持ちがすっと軽くなると説いています。こころの深呼吸をためしてみませんか。

『旅する練習』

乗代　雄介/著　講談社　Ｆ/ノリ/20（図書館４階一般/ふじとう/味美）

サッカー好きの少女亜美（あび）と小説家の叔父。コロナ禍で時間ができたため、我孫子（千葉県）から鹿島アントラーズの本拠地（茨城県）まで、以前の合宿で持ち帰ってしまった本を返す目的で歩き、リフティングしたり、文章を書いたりして急がない旅を続けます。旅先で出会った人、自然、仏閣などにふれあうことで大切なことをみつけます。

コロナが収束したら、私たちもゆったりとふれあいを求める、そんな旅に早く出かけたいものです。

おすすめ本紹介

大人の絵本

絵本は子どもの物という感覚があるかと思います。児童書の絵本にも、ぜひ大人に読んでほしい本がたくさんありますが、何十年か生きてきて人生経験をつんできた大人にしか理解したり感じたりすることができない本があります。それが「大人の絵本」です。今回紹介した本以外にも図書館にはたくさんあるので、同じ分類番号の棚をのぞいてみてください。

『セミ』

ショーン・タン/著　岸本　佐知子/訳

河出書房新社　726.6/セ/19（図書館４階一般）

人間社会の中にある色々な理不尽さを、セミを主人公にして訴えている本。人間の悪意や差別に耐えて最後を迎えるセミ。最後に羽化し空に飛び立ったセミ達は森へ帰っていきます。最後に「ときどきニンゲンのことかんがえる。わらいがとまらない。」と言い残します。人間社会をあざ笑うように。

『はぐれくん、おおきなマルにであう』

シェル・シルヴァスタイン/作　村上　春樹/訳　あすなろ書房

726.6/ハ/19（図書館４階一般/ふじとう）

凄く単純な絵で表現されています。だからこそ読み手次第で受け取り方が多種多様になる本です。誰ともピッタリ合わなくて寂しい思いをしている破片の「はぐれくん」。色々考えたり努力したり何とか合わせようと必死です。しかし、誰かの一部になるのではなく自分自身が少しずつ変わる大切さに気付きます。依存ではなく自立した上での共存。なんだか人生の答えをもらったような読後感です。

『モタさんの“言葉”　２』

斎藤　茂太/文　松本　春野/絵　講談社

726.6/モ/13-2（図書館４階一般）

精神科医の斎藤茂太さんのエッセイを絵本にした本です。

長い年月生きてきて色々な人、事象に出会い、悩んだり苦しんだり喜んだりした人生経験が言葉の一つ一つにあふれていて、読者を優しく包み込んでくれます。はっきりした答えをもらうわけではないけれど、心がほわっと温かくなり、妥協や諦めとは違った、許す事、受け入れる事の大切さを教えてくれます。